

「伝統と創意」

広報紙

書くよろこび

第12号

■文部科学省

初等中等教育局長寄稿

1面

■座談会 書写書道教育の未来 2~5面

6・7面

■書写書道教育の実践 8・9面

10・11面

■ユネスコ無形文化遺産登録を 12・13面

14・15面

■識者インタビュー 16面

■第13回手書き文字ばんざい!

■小中展、高大展報告

■シルバー展報告

- 一、日本の伝統文化芸術を守り育もう
- 二、すばらしい日本語の心を伝えよう
- 三、心を映す文字をより大切にしよう
- 四、書く楽しさ喜びを通して健やかな心を養おう
- 五、美しい文字で潤いのある豊かな人生を送ろう



私たちは児童生徒一般すべての人々の書写の環境を整え、豊かな心を取りもどすため総力をあげて「手書き文字の振興」に取り組んでいます。



私たち「日本の書道文化」の
ユネスコ無形文化遺産登録に
取り組んでいます。

豊かな心は手書き文字から

【目的】
文字・活字文化振興法の骨子
し、知的で心豊かな国民生活および
活力ある社会の実現に寄与する。

【基本理念】
國民が等しく豊かな文字・活字
文化の恵澤を受ける環境を整備す
る。國語が日本文化の基盤である。

【責務】
国や地方公共団体は文字・活字文
化の振興策を策定し、実施する責務
がある。

【地域での振興】
市町村は公立図書館を設置する。

平成29年3月、小学校及び中学校の新学習指導要領が公示されました。改訂に当たっては、中央教育審議会において約2年にわたる議論を重ね、平成28年12月に取りまとめられた「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」(答申)に示された改訂の方向性に基づき改善が図られています。

運筆重要 指導に工夫

指導の工夫を求めました。
具体的には、彈力性に富む水書用筆等を使用した運筆指導を取り入れるなどして、早い段階から硬筆書写の能力を高めるための関連的な指導を工夫することを

を図ることを重視し、検討を進めているところです。今後、グローバル化が進展する中で、異文化理解のためにも、我が国の伝統や文化への理解を深め、継承・発展させる態度の育成が

ますます大切となると言われます。前述の中学校では、第3学年の国語科において、「身の回りの多様な表現を通して文字文化の豊かさに触れ、効果的に文字を書くこと」を指導することとしていま

る認識を形成させるとともに、主体的な文字の使い手になるきっかけをもたせることがあります。また、

高等院校芸術科(書道)について、平成29年度中の改訂に向け、中央教育審議会答申を踏まえ、生活や社会における文字や書と豊かに関わる資質・能力の育成

が、併せて文字文化に関する知識を形成させるとともに、主体的な文字の使い手になるきっかけをもたせることがあります。また、



文部科学省
初等中等教育局長

高橋 道和 氏

今回の改訂では、育成を

示したところです。

中学校では、第3学年の

国語科において、「身の回りの多様な表現を通して文

字文化の豊かさに触れ、効

果的に文字を書くこと」を

指導するとしていま

す。ここでは、文字を手書

きすことの意義に気付か

せ、併せて文字文化に關す

ることを求めています。また、

高等院校芸術科(書道)に

ついても、平成29年度中の

改訂に向け、中央教育審議

会答申を踏まえ、生活や社

会における文字や書と豊か

に関わる資質・能力の育成

が、併せて文字文化に関する

知識を形成させるとともに、主体的な文字の使い手

になるきっかけをもたせる

ことがあります。また、

高等院校芸術科(書道)に

ついても、平成29年度中の

改訂に向け、中央教育審議

会答申を踏まえ、生活や社

会における文字や書と豊か

に関わる資質・能力の育成

が、併せて文字文化に関する

知識を形成させるとともに、主体的な文字の使い手

になるきっかけをもたせる

ことがあります。また、

高等院校芸術科(書道)に

ついても、平成29年度中の

改訂に向け、中央教育審議

会答申を踏まえ、生活や社

会における文字や書と豊か

に関わる資質・能力の育成

が、併せて文字文化に関する

知識を形成させるとともに、主体的な文字の使い手

になるきっかけをもたせる

ことがあります。また、

高等院校芸術科(書道)に

ついても、平成29年度中の

改訂に向け、中央教育審議

会答申を踏まえ、生活や社

会における文字や書と豊か

に関わる資質・能力の育成

が、併せて文字文化に関する

知識を形成させるとともに、主体的な文字の使い手

になるきっかけをもたせる

ことがあります。また、

高等院校芸術科(書道)に

ついても、平成29年度中の

改訂に向け、中央教育審議

会答申を踏まえ、生活や社

会における文字や書と豊か

に関わる資質・能力の育成

が、併せて文字文化に関する

知識を形成させるとともに、主体的な文字の使い手

になるきっかけをもたせる

ことがあります。また、

高等院校芸術科(書道)に

ついても、平成29年度中の

改訂に向け、中央教育審議

会答申を踏まえ、生活や社

会における文字や書と豊か

に関わる資質・能力の育成

が、併せて文字文化に関する

知識を形成させるとともに、主体的な文字の使い手

になるきっかけをもたせる

ことがあります。また、

高等院校芸術科(書道)に

ついても、平成29年度中の

改訂に向け、中央教育審議

会答申を踏まえ、生活や社

会における文字や書と豊か

に関わる資質・能力の育成

が、併せて文字文化に関する

知識を形成させるとともに、主体的な文字の使い手

になるきっかけをもたせる

ことがあります。また、

高等院校芸術科(書道)に

ついても、平成29年度中の

改訂に向け、中央教育審議

会答申を踏まえ、生活や社

会における文字や書と豊か

に関わる資質・能力の育成

が、併せて文字文化に関する

知識を形成させるとともに、主体的な文字の使い手

になるきっかけをもたせる

ことがあります。また、

高等院校芸術科(書道)に

ついても、平成29年度中の

改訂に向け、中央教育審議

会答申を踏まえ、生活や社

会における文字や書と豊か

に関わる資質・能力の育成

が、併せて文字文化に関する

知識を形成させるとともに、主体的な文字の使い手

になるきっかけをもたせる

ことがあります。また、

高等院校芸術科(書道)に

ついても、平成29年度中の

改訂に向け、中央教育審議

会答申を踏まえ、生活や社

会における文字や書と豊か

に関わる資質・能力の育成

が、併せて文字文化に関する

知識を形成させるとともに、主体的な文字の使い手

になるきっかけをもたせる

ことがあります。また、

高等院校芸術科(書道)に

ついても、平成29年度中の

改訂に向け、中央教育審議

会答申を踏まえ、生活や社

会における文字や書と豊か

に関わる資質・能力の育成

が、併せて文字文化に関する

知識を形成させるとともに、主体的な文字の使い手

になるきっかけをもたせる

ことがあります。また、

高等院校芸術科(書道)に

【座談会出席者】

青山 浩之氏
　　横浜国立大学教授
押木 秀樹氏
　　上越教育大学大学院教授
松本 仁志氏
　　広島大学大学院教授

黒田 賢一 本院理事長
土橋 靖子 本院副理事長
寺坂 昌三 本院常務理事・書写書道
教育推進部副部長=司会

■オブザーバー
横山 煌平 本院副理事長
岩永 栖邨 本院常務理事・書写書道
教育推進部部長



上越教育大学大学院教授

押木秀樹氏

新指導要領「運筆・目的」示す

もたちが字を書く様子を見た時に、あまりにもぎこちなく、滑らかさを感じられなかつたこともあります。さらには、書写授業が書写授業の中で完結してしまつてゐる状況に危惧を持っていました。国語科の研究者の書写に対する風当たりは、30年前はもっと強かつた。「書写なんて何の役に立つてゐるのか」と。それを学習指導要領上で、解決するためには、「書写の学びは、こういう形で生活の中で生きている」ということを指導事項で示して流れをつけることが必要だと考えていました。結果、小学校5、6年で、小学校での書写の学びは、こういう出口があるということが明示されました。このたびの29年版では「運筆」に関する指導事項がさらに整理され、解説的小学1、2年の「水書用筆」と対応させた、「点画の書き方」という言葉が新たに入りました。これは動作のことです。そして、3、4年では毛筆を使って点画の書き方への理解を深め、「筆圧」の言葉を使ってそれをつなぎ、「5、6年で「穂先の動き」「点画のつながり」を入れて、多文字数を書く動作へと広げてゆくという整理になつています。さらに、毛

筆による運筆指導を強化するため、水書用筆の使用を小学1、2年に位置付け、強く推奨しています。

青山 教育課程で目指される「学力観」は変わってきています。平成29年版への改訂に向けて、文科相が中教審へ諮問した時に色濃く出たのは、「実社会や実生活の中で活用できる学力」という点だったと思います。簡単に言えば、「使える学力」、生活の中で使える力を養うという点でした。これは、動作を含めて様々な場面で効果的に書くことが出来る力だと思います。相手に正確に伝わるよう書くには、ゆっくりと構築性の高い文字を書く必要がある。時間がない中で書く場合には、手際よく速く書く必要があります。それらは学校からの動作の学習に裏打ちされると思います。動作指導、字形指導が様々な場面で適合し、使えるようになっていくイメージです。以前は、文化内容や教科内容がそもそもあって、それが大切だから子どもに教えようという考え方でした。今後もそれは基本にあるのですが、色濃く出たのは「子どもたちに何が足らないから、何を学ぶ必要があるのか」。逆に言えば「何ができるないのか」。



横浜国立大学教授

青山 浩之 氏

きな出来事が今、私たちの時代に起きていました。「何か手を打たなくてよいのか」と思うわけです。これに対し、平成20年版学習指導要領で「手書き打つてもらつた」と感じました。書写の学習は「形をどうするか」、いう学習のように思われがちですが、その「形は人の動作によって決まるのだ」ということが分かりやすくなつた。さらには「何のために書きくのか」という意識化がはかれるようになったのもこの時です。手書きの重要性が明確になり、まず「手書きでやつてゆこう」という学習指導要領ですね。形、動作、目的、文化などをきつちり示されたのが平成29年版の学習指導要領だと捉えています。

基礎として、筆記具を選択し効果的に使用するなど、目的や状況に応じて書き方を判断して書くことについて示している。
なお、「第3 指導計画の作成と内容の取扱い」の2(1)力に示している書写の学習指導の配慮事項を踏まえる必要がある。

第3 指導計画の作成と内容の取扱い

2 第2の内容の取扱いについては、次の事項に配慮するものとする。

(1) 「知識及び技能」に示す事項については、次のとおり取り扱うこと。
書写の指導については、第2の内容に定めるほか、次のとおり取り扱うこと。
(ア) 文字を正しく整えて書くことができるようにすることも、書写の能力を学習や生活に役立てる態度を育てるよう配慮すること。

(イ) 硬筆を使用する書写の指導は各学年で行うこと。
(ウ) 毛筆を使用する書写の指導は第3学年以上の各学年で行い、各学年年間30単位時間程度を配当するとともに、毛筆を使用する書写の指導は硬筆による書写の能力の基礎を養うよう指導すること。

(工) 第1学年及び第2学年の(3)のウの(イ)の指導については、適切に運筆する能力の向上につながるよう、指導を工夫すること。

【解説】(工)は、第1学年及び第2学年の「知識及び技能」の(3)ウ(イ)における「点画の書き方や文字の形に注意しながら」書くことの指導について、適切に運筆する能力の向上につながるよう、指導を工夫することを示している。

水書用筆等を使用した運筆指導を取り入れるなど、早い段階から硬筆書写の能力を高めるための関連的な指導を工夫することが望ましい。水書用筆は、扱いが簡単で弾力性に富み、時間の経過とともに筆跡が消えるという特性をもっている。その特性を生かして、「点画」の始筆から、送筆、終筆(とめ、はね、はらい)までの一連の動作を繰り返し練習することは、学習活動や日常生活において、硬筆で適切に運筆する習慣の定着につながる。また、水書用筆等を使用する指導は、第3学年から始まる毛筆を使用する書写の指導への移行を円滑にすることにつながる。



と言われるのですが、何百枚も書くには筆の方が楽なのです。小学校で2B、4Bの鉛筆を使うのは、子どもが初めて紙に書く時に少しでも柔らかい筆記具にしようという配慮だつたと思います。しかし、それには限界があつた。小学校低学年の子どもは力を入れて鉛筆を握り、紙に触れているか触れていないか、つまり「いか」が0になるため、どうしても動作が滑らかになりにくかった。その意味では水書用筆はとても効果が期待されます。柔らかい筆記具である毛筆を持った経験のある子の方が、経験のない子よりもある程度、動作が滑らかになるという調査結果が出ました。文字を書く動作の質が良いといふことが言える。これからも水書用筆を導入しながら、子どもたちの反応も分析しつつ、よりよい指導を考えゆく必要がありますが、効果は期待できると思います。

松本 子どもたちの持ち手が硬直する原因として、「字形を整えなければいけない」という意識がとても強く働くからだと思います。同じ鉛筆でも絵画を描くときはとても楽に書いている。字を書くときは緊張している。その意味で、水書用筆は書いた字が消えますので、「字形指導よりも運筆指導」だという部分がより明確になる効果がある。だから私は現場の先生方に、「持ち方指導をするときは、字がどんなにゆがんでも、線が薄くても、正しく力が入るようになるまではそれを許容して

書いています。字を書くときは緊張している。その意味で、水書用筆は書いた字が消えますので、「字形指導よりも運筆指導」だという部分がより明確になる効果がある。だから私は現場の先生方に、「持ち方指導をするときは、字がどんなにゆがんでも、線が薄くても、正しく力が入るようになるまではそれを許容して

書いています。字を書くときは緊張している。その意味で、水書用筆は書いた字が消えますので、「字形指導よりも運筆指導」だという部分がより明確になる効果があるので、私は現場の先生方に、「持ち方指導をするときは、字がどんなにゆがんでも、線が薄くても、正しく力が入るようになるまではそれを許容して



本院常務理事
寺坂 昌三

いいた点がよく示されますが、それに加え、「不要な動作を吸収している」可能性があるなど、多様な視点から研究してゆきたいと感じています。

寺坂 小学生から水書用筆が使えるようになったことを受けて、3年生以上の毛筆を使った指導の有用性をまとめただければ。

青山 3年生以上での毛筆指導については、これまで大切だと考えられてきました。「硬筆の基礎」としての動作学習はもちろんのこと、将来的に毛筆で書いたことによつて様々な場面で、書写の学習経験が生きてくる。「書の文化」に子どもたちが広がつてゆく意味を含めて捉えていました。私はいつも書写で学習すべき要素を五つにまとめて言います。①「姿勢と持ち方」(構えの部)

寺坂 水書用筆は樂に書ける、持ち方も硬くならないというメリットがありますね。先ほどの毛筆経験の有無に関する共同研究で、硬筆で漢字の七を書かせたという実践がありました。毛筆経験のある子は筆圧が変化しているという報告をされていますね。毛筆の経験の有無が硬筆の動作に影響していく、毛筆経験のある子の方が望ましい

分) ②「筆使い」(筆記具を滑らかに動かすこと) ③「筆順」④「字形」⑤「配列」です。「姿勢と持ち方」は、それを身に付けることによって、将来にわたって書きやすさを享受できます。「筆使い」も指先の動作の巧緻性が書きやすさにつながり、「筆順」も効果的な順番で書くことで効率よく書け、字形が

形になっていますね。毛筆の効果が見える所は我々としてもうれしくなりました。

押木 対象とした子どもたちを観察した結果、「そういう」と見ることが出来た」ということです。研究者としてはもっと積み重ねる必要があると感じています。対象を増やしても同じことが言えるかどうかは、まだまだやらなければいけないと思っています。

青山 大きな違いではなくて、「違

いが見られるだろう」ということで、関連性はあります。私たちもそこ期待して研究をしていますか日常につながっていない」という課題があります。そういった課題に取り組むことで、次の学習指導要領につなげていきたいと思います。

押木 毛筆の機能として、動き



本院副理事長
土橋 靖子

整うという意味で、これらはすべて「その子にとっての書きやすさ」につながります。一方で「字形」と「配列」は何のために身に付けるかといふと、人とコミュニケーションをはかる場で機能させるためです。そういう視点で書写教育を捉える必要がある。毛筆の学習はその中の「筆使い」「構えの部分」に位置付けられます。「その子の書きやすさ」というくくりになります。ですが、毛筆が文字文化を支えてきた筆記具である以上は、書きやすさだけでなく、筆で書かれた文字が人にどんな感覚を与えるのかということを、考へる必要があります。「書きやすさを支えるための道具」だった毛筆から、筆圧が変化しているという報告をされることがあります。毛筆の経験の有無が硬筆の動作に影響していく、毛筆経験のある子の方が望ましい

大切だと思っているのは、「書写は人間形成に関わる」という部分です。毛筆では大きく書くことが効果的ですが、図形的な思考、考えながら書く部分ですね。手本通りに書くのではなくて、考え方、試行錯誤をする。「こうしたらどうなるか」と考えながら書く結果として、そこで習得した技能は応用性を持つのです。それが人間形成にとって大切な「思考」というものにつながる。毛筆はそこでき大きな役割を果たします。

青山 書写教育に短絡的に毛筆の

整うという意味で、これらはすべて「その子にとっての書きやすさ」につながります。一方で「字形」と「配列」は何のために身に付けるかといふと、人とコミュニケーションをはかる場で機能させるためです。そういう視点で書写教育を捉える必要がある。毛筆の学習はその中の「筆使い」「構えの部分」に位置付けられます。「その子の書きやすさ」というくくりになります。ですが、毛筆が文字文化を支えてきた筆記具である以上は、書きやすさだけでなく、筆で書かれた文字が人にどんな感覚を与えるのかということを、考へる必要があります。「書きやすさを支えるための道具」だった毛筆から、筆圧が変化しているという報告をされることがあります。毛筆の経験の有無が硬筆の動作に影響していく、毛筆経験のある子の方が望ましい

大切だと思っているのは、「書写は人間形成に関わる」という部分です。毛筆では大きく書くことが効果的ですが、図形的な思考、考えながら書く部分ですね。手本通りに書くのではなくて、考え方、試行錯誤をする。「こうしたらどうなるか」と考えながら書く結果として、そこで習得した技能は応用性を持つのです。それが人間形成にとって大切な「思考」というものにつながる。毛筆はそこでき大きな役割を果たします。

青山 書写教育に短絡的に毛筆の

整うという意味で、これらはすべて「その子にとっての書きやすさ」につながります。一方で「字形」と「配列」は何のために身に付けるかといふと、人とコミュニケーションをはかる場で機能させるためです。そういう視点で書写教育を捉える必要がある。毛筆の学習はその中の「筆使い」「構えの部分」に位置付けられます。「その子の書きやすさ」というくくりになります。ですが、毛筆が文字文化を支えてきた筆記具である以上は、書きやすさだけでなく、筆で書かれた文字が人にどんな感覚を与えるのかということを、考へる必要があります。「書きやすさを支えるための道具」だった毛筆から、筆圧が変化しているという報告をされることがあります。毛筆の経験の有無が硬筆の動作に影響していく、毛筆経験のある子の方が望ましい

整うという意味で、これらはすべて「その子にとっての書きやすさ」につながります。一方で「字形」と「配列」は何のために身に付けるかといふと、人とコミュニケーションをはかる場で機能させるためです。そういう視点で書写教育を捉える必要がある。毛筆の学習はその中の「筆使い」「構えの部分」に位置付けられます。「その子の書きやすさ」というくくりになります。ですが、毛筆が文字文化を支えてきた筆記具である以上は、書きやすさだけでなく、筆で書かれた文字が人にどんな感覚を与えるのかということを、考へる必要があります。「書きやすさを支えるための道具」だった毛筆から、筆圧が変化しているという報告をされることがあります。毛筆の経験の有無が硬筆の動作に影響していく、毛筆経験のある子の方が望ましい

整うという意味で、これらはすべて「その子にとっての書きやすさ」につながります。一方で「字形」と「配列」は何のために身に付けるかといふと、人とコミュニケーションをはかる場で機能させるためです。そういう視点で書写教育を捉える必要がある。毛筆の学習はその中の「筆使い」「構えの部分」に位置付けられます。「その子の書きやすさ」というくくりになります。ですが、毛筆が文字文化を支えてきた筆記具である以上は、書きやすさだけでなく、筆で書かれた文字が人にどんな感覚を与えるのかということを、考へる必要があります。「書きやすさを支えるための道具」だった毛筆から、筆圧が変化しているという報告をされることがあります。毛筆の経験の有無が硬筆の動作に影響していく、毛筆経験のある子の方が望ましい

整うという意味で、これらはすべて「その子にとっての書きやすさ」につながります。一方で「字形」と「配列」は何のために身に付けるかといふと、人とコミュニケーションをはかる場で機能させるためです。そういう視点で書写教育を捉える必要がある。毛筆の学習はその中の「筆使い」「構えの部分」に位置付けられます。「その子の書きやすさ」というくくりになります。ですが、毛筆が文字文化を支えてきた筆記具である以上は、書きやすさだけでなく、筆で書かれた文字が人にどんな感覚を与えるのかということを、考へる必要があります。「書きやすさを支えるための道具」だった毛筆から、筆圧が変化しているという報告をされることがあります。毛筆の経験の有無が硬筆の動作に影響していく、毛筆経験のある子の方が望ましい



本院理事長

黒田 賢一

てほしい。例えば、高校の定員を増やすにしても、教員養成の充実にしても、それを世論が支えてくれないと、教育に関わる人の意識が変わらない。そして意識が高まつてもまだハードルが高い。時代が何を求めているかという中で、手で文字を書くことをじこまで重視するかを判断する時に、「手書きは大切、でも英語などの方が今はもっと大切」という壁にぶつかるのが現状です。手書き文字に関する仕事をしている人がそれこそ「オールジャパン」で取り組む態勢が必要だと思っています。

青山 「手書き」に関して、国語の世論調査では「手書きの習慣をこ

れからも大切にすべきか」に9割以上の人気が肯定している。「手紙は手

書きの方がよいか」に肯定するのは40～60歳代の率より、20～30歳代の率の方がやや高い。これはすごいことだと思います。ある意味で、若者たちのそうした感覚を支えるために察知しながら、オールジャパン、オール書道で進めていく必要があると思

います。

押木 我々が大学生に調査をする

と、「手書きは大切」と高い比率で

答えていましたが、「もらつてうれし

いのは手書き」だが、「送るのはメ

ール」だと。例えば、手書きのはが

きを送るのに、負担を感じるかどうかは、経験の有無が関わってきます。

書きの方があがめています。

手書き文字が世の中でじのよう

に受け止められているかを敏感に察

知しながら、オールジャパン、オー

ル書道で進めていく必要があると思

います。

押木 我々が大学生に調査をする

と、「手書きは大切」と高い比率で

答えていましたが、「もらつてうれし

いのは手書き」だが、「送るのはメ

ール」だと。例えば、手書きのはが

きを送るのに、負担を感じるかどうかは、経験の有無が関わってきます。

書きの方があがめています。

手書き文字が世の中でじのよう

に受け止められているかを敏感に察

知しながら、オールジャパン、オー

ル書道で進めていく必要があると思

います。

押木 我々が大学生に調査をする

と、「手書きは大切」と高い比率で

答えていましたが、「もらつてうれし

いのは手書き」だが、「送るのはメ

ール」だと。例えば、手書きのはが

きを送るのに、負担を感じるかどうかは、経験の有無が関わってきます。

書きの方があがめています。

手書き文字が世の中でじのよう

に受け止められているかを敏感に察

知しながら、オールジャパン、オー

ル書道で進めていく必要があると思

います。

押木 我々が大学生に調査をする

と、「手書きは大切」と高い比率で

答えていましたが、「もらつてうれし

いのは手書き」だが、「送るのはメ

ール」だと。例えば、手書きのはが

きを送るのに、負担を感じるかどうかは、経験の有無が関わってきます。

書きの方があがめています。

手書き文字が世の中でじのよう

に受け止められているかを敏感に察

知しながら、オールジャパン、オー

ル書道で進めていく必要があると思

います。

押木 我々が大学生に調査をする

と、「手書きは大切」と高い比率で

答えていましたが、「もらつてうれし

いのは手書き」だが、「送るのはメ

ール」だと。例えば、手書きのはが

きを送るのに、負担を感じるかどうかは、経験の有無が関わってきます。

書きの方があがめています。

手書き文字が世の中でじのよう

に受け止められているかを敏感に察

知しながら、オールジャパン、オー

ル書道で進めていく必要があると思

います。

押木 我々が大学生に調査をする

と、「手書きは大切」と高い比率で

答えていましたが、「もらつてうれし

いのは手書き」だが、「送るのはメ

ール」だと。例えば、手書きのはが

きを送るのに、負担を感じるかどうかは、経験の有無が関わってきます。

書きの方があがめています。

手書き文字が世の中でじのよう

に受け止められているかを敏感に察

知しながら、オールジャパン、オー

ル書道で進めていく必要があると思

います。

押木 我々が大学生に調査をする

と、「手書きは大切」と高い比率で

答えていましたが、「もらつてうれし

いのは手書き」だが、「送るのはメ

ール」だと。例えば、手書きのはが

きを送るのに、負担を感じるかどうかは、経験の有無が関わってきます。

書きの方があがめています。

手書き文字が世の中でじのよう

に受け止められているかを敏感に察

知しながら、オールジャパン、オー

ル書道で進めていく必要があると思

います。

押木 我々が大学生に調査をする

と、「手書きは大切」と高い比率で

答えていましたが、「もらつてうれし

いのは手書き」だが、「送るのはメ

ール」だと。例えば、手書きのはが

きを送るのに、負担を感じるかどうかは、経験の有無が関わってきます。

書きの方があがめています。

手書き文字が世の中でじのよう

に受け止められているかを敏感に察

知しながら、オールジャパン、オー

ル書道で進めていく必要があると思

います。

押木 我々が大学生に調査をする

と、「手書きは大切」と高い比率で

答えていましたが、「もらつてうれし

いのは手書き」だが、「送るのはメ

ール」だと。例えば、手書きのはが

きを送るのに、負担を感じるかどうかは、経験の有無が関わってきます。

書きの方があがめています。

手書き文字が世の中でじのよう

に受け止められているかを敏感に察

知しながら、オールジャパン、オー

ル書道で進めていく必要があると思

います。

押木 我々が大学生に調査をする

と、「手書きは大切」と高い比率で

答えていましたが、「もらつてうれし

いのは手書き」だが、「送るのはメ

ール」だと。例えば、手書きのはが

きを送るのに、負担を感じるかどうかは、経験の有無が関わってきます。

書きの方があがめています。

手書き文字が世の中でじのよう

に受け止められているかを敏感に察

知しながら、オールジャパン、オー

ル書道で進めていく必要があると思

います。

押木 我々が大学生に調査をする

と、「手書きは大切」と高い比率で

答えていましたが、「もらつてうれし

いのは手書き」だが、「送るのはメ

ール」だと。例えば、手書きのはが

きを送るのに、負担を感じるかどうかは、経験の有無が関わってきます。

書きの方があがめています。

手書き文字が世の中でじのよう

に受け止められているかを敏感に察

知しながら、オールジャパン、オー

ル書道で進めていく必要があると思

います。

押木 我々が大学生に調査をする

と、「手書きは大切」と高い比率で

答えていましたが、「もらつてうれし

いのは手書き」だが、「送るのはメ

ール」だと。例えば、手書きのはが

きを送るのに、負担を感じるかどうかは、経験の有無が関わってきます。

書きの方があがめています。

手書き文字が世の中でじのよう

に受け止められているかを敏感に察

知しながら、オールジャパン、オー

ル書道で進めていく必要があると思

います。

押木 我々が大学生に調査をする

と、「手書きは大切」と高い比率で

答えていましたが、「もらつてうれし

いのは手書き」だが、「送るのはメ

ール」だと。例えば、手書きのはが

きを送るのに、負担を感じるかどうかは、経験の有無が関わってきます。

書きの方があがめています。

手書き文字が世の中でじのよう

に受け止められているかを敏感に察

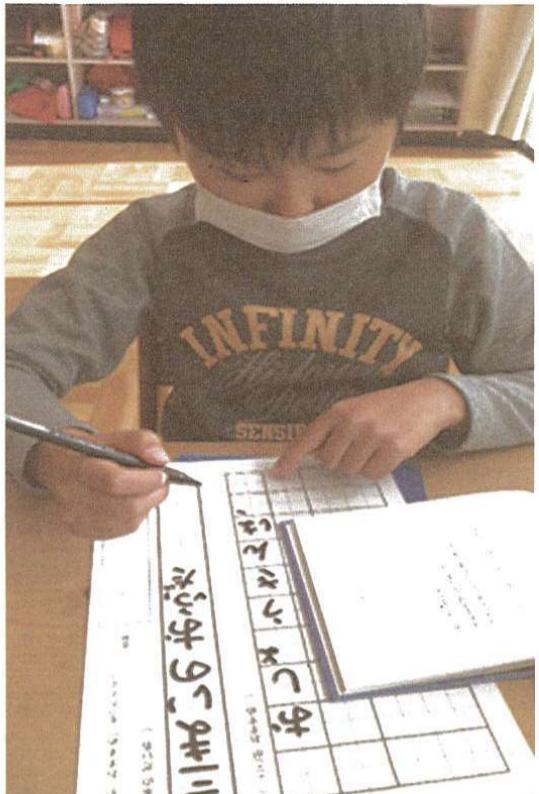
知しながら、オールジャパン、オー

ル書道で進めていく必要があると思

います。

押木

知識の蓄積「美文字貯金」



静岡県・中川根第一小学校

文部科学省は中央教育審議会が平成32年度(2020年度)以降の教育内容などを定めた次期学習指導要領の基本方針を答申したのを受けて、平成29年(2017年)3月に、小・中学校の新しい学習指導要領を告示した。

今回の改訂では「文字文化」がひとつのキーワードとなり、小学校における毛筆指導の充実や指導の工夫にもつながる方向性が示された。また、発表などを通じて主体的に学ぶ「アクティブ・ラーニング」の視点も強調されたほか、思

考、判断しながら知識・技能を習得してゆく授業のあり方が求められている。

教育現場では書写・書道の授業でも、こうした新しい流れを先取りするような意欲的な取り組みが、すでに始まっている。今回は小学生が文字を整えて書く要点などの知識を「美文字ポイント」、その知識の蓄積を「美文字貯金」と呼び、児童の主体的な学びを導く静岡県川根本町立「中川根第一小学校」の授業実践を紹介する。

川根本町は静岡県中部に位置し、蒸気機関車が走る大井川鐵道と、銘茶「川根本茶」で知られる山あいの町。中川根第一小は全校生徒45人の小さな学校だ。同小では小林聖香教諭が中心となつて平成28年度(16年度)から、小規模校の利点を生かして、「書字体力向上のための視写活動」、「硬筆にも生かすことのできる、毛筆書写力の育成をめざす授業」に、全校体制で取り組んできた。

「視写活動」では、字を書くことをひとつ運動とし、これを「書字体力」と規定している。その「書字体力」向上のため、硬筆書写を計量化、一定時間内で視写する文字数を増やすことを目指した。児童はワークシートの1行に15秒で出来るだけ多くの文字を写す。教師の合図で次の行に移り、同じことを繰り返し、5分間で書いた文字数を数えた。

「毛筆書写力の育成」では、薄墨を含ませた筆の穂先に朱墨をつけることで、筆使いや運筆を視覚を伴って意識する学習や、自分用のワークシートを作成する授業を行った。

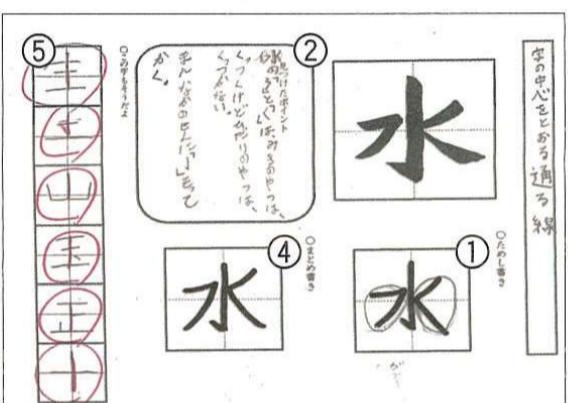
これらの中実践によって、同校の書写授業は、「今日はどんな練習をするのか」と児童にとつて魅力的なものになった。その一方で、計量化し、早く書こうとすることで、筆記具の持ち方や、姿勢に乱れが生じやすいこ

とをひどつと運動とし、これを「書字体力」と規定している。その「書字体力」向上のため、硬筆書写を計量化、一定時間内で視写する文字数を増やすことを目指した。児童はワークシートの1行に15秒で出来るだけ多くの文字を写す。教師の合図で次の行に移り、同じことを繰り返し、5分間で書いた文字数を数えた。

「毛筆書写力の育成」では、薄墨を含ませた筆の穂先に朱墨をつけることで、筆使いや運筆を視覚を伴って意識する学習や、自分用のワークシートを作成する授業を行った。

これらの中実践によって、同校の書写授業は、「今日はどんな練習をするのか」と児童にとつて魅力的なものになった。その一方で、計量化し、早く書こうとすることで、筆記具の持ち方や、姿勢に乱れが生じやすいこ

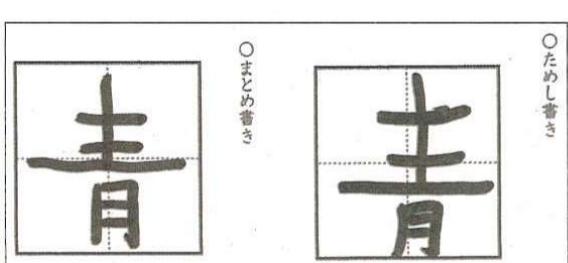
書字のポイント探し成果



(写真1)



(写真2)



(写真3)

ワークシート(写真1)では、課題の「水」や「青」という字について児童が自分で考えながらためし書き。次いで、字を美しく、整えて書くためのポイント

- 【授業実践】**
- ①ためし書き
 - ②美文字ポイントの話し合い
 - ③水書筆を用いた練習
 - ④まとめ書き
 - ⑤「これもそうだよ」を見つける

えて書く動機付けになると考えた。まず、美文字貯金を増やす授業。ワークシートは児童が書く踏まえて、「正しい筆記具の持ちらや姿勢で書字体力を高めるためににはどうすればいいか」「学習した内容を生活に生かすにはどうするか」という課題に取り組んだ。

そこで、字形の整え方の知識をそれぞれの児童が蓄積すれば、身の回りにある文字の特徴に気付き、どんな場面でも整った文字を書こうとするだろうと考えた。その知識を「美文字ポイント」、知識の蓄積を「美文

ト(美文字ポイント)を児童が話し合い(写真2)、その結果を記した。発見した美文字ポイ

ントを意識しながら、水書筆で

練習。その成果をまとめ書きした。最後は、教科書や身の回りの字から、同じ「美文字ポイント」を持つ字を見つけて記した。

この中で、ためし書きとまとめ書きをワークシートに並べて比較することで、児童は学習の成果を実感できたといふ。「青」よりもまとめ書きの方が、自信を持って書くことが出来たこと

が分かる。

さらに、新しい漢字を学ぶ時は、「この字も、この線は同じ幅で書くとよい」と、美文字ポイントを考えながら学習する姿が見られた。

実際に、水書筆を授業に使うことについてのアンケートでは、8割の児童が「はね、とめ、はらいのやり方が分かった」と回答した。軟筆が効果的に活用されていることがうかがえる。

水書筆の利用について、小林教諭は「書字活動の入門期ほど効果が高い」と考え、平成29年度は入学して間もない1年生を対象に水書筆を用いた学習を行った。その結果、鉛筆を握りしめるように持つ前のめりになっていた児童が、水書筆を持った場合は余分な力が抜けて筆記具の持ち方も改善された(写真4)。

児童はこの過程で水書筆を用いて書く練習を行ったが、穂先の軟らかい筆を使って練習することではね、とめ、はらいや接筆を意識して書いていたといふ。特に、穂先が軟らかいため、余分な力を入れなくて字を書くことができ、姿勢や筆記具の持ち方の乱れが少なかった。



(写真4)

日本の書道文化

日本人の生活の中で、筆による手書き文字の温かさ、思いを伝える力といったものが、再評価されています。時代がいかに変わっても、人生の節目、一年の節目で必ず書が必要とされ、毛筆文字が求められます。

我が国に古くから伝わる書にまつわる伝統を、この機会に見直してみましょう。



芳名録は読みやすく

悲しみ表す薄墨

、人生の中では、悲しみにも出会います。

表書者

よりますが、薄い墨を使って書くのが一涙で墨が薄まってしまったことを表現します。宗教によって異なり、仏式では「御」、神式では「御玉串料」など、キリスト教では「花料」などとします。

誕生「成人」「婚姻」「葬送」。人生の大きな節目に、は、それぞれ心を込めた儀式が執り行われ、筆を持つ機会が訪れます。

健やかな成長願う

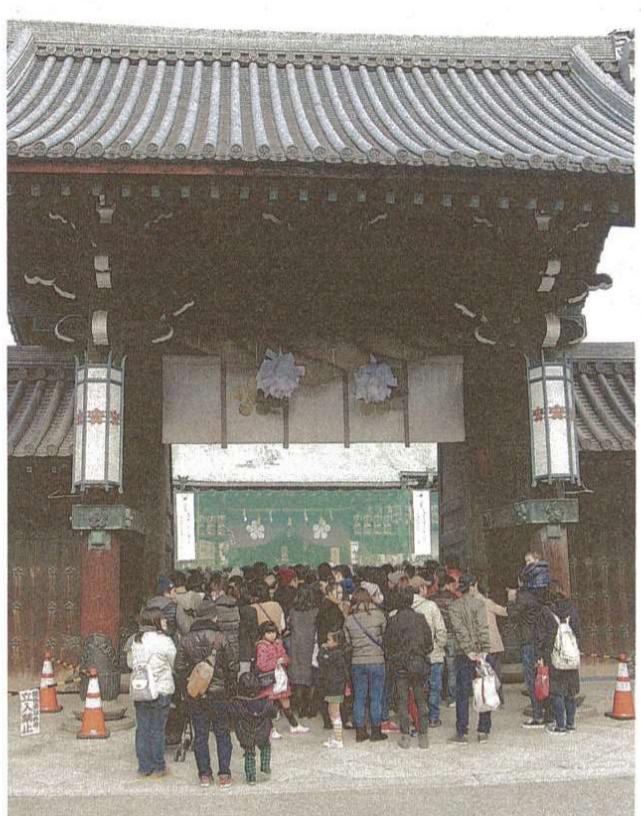
子供が誕生して成長する過程では、お七夜、お食い初め、宮参り、初節句、初誕生日、七五三、入学祝い、十三参りなどの節目に、子供が健康に成長するように親族、縁者が祈ります。それらに関する書のしきたりには、子供の健やかな成長を見守る人たちの、強い思いが込められています。

俞名書

子供の誕生から数えて7日目が「お七夜」で、子供の名前を決めてお祝いをすることが多いようです。子供の名前を書いた命名書には、生年月日や命名者名などを添えます。

六次第

式次第 入学式や卒業式など格式を大切にする式には、式場前方など、見やすいところに式次第が掲げられます。会場の後方からでもよく読めるように、大きな文字で書き、行間、字間をそろそろとします。



書き初め

子供がある程度の年齢に達すると、書き初めに挑戦することも多いようです。宮中の文人の行事から始まり、今ではお正月の伝統行事としてすっかり定着しています。学問の神様・菅原道真公をまつる大阪天満宮（大阪市北区）でも、元日から3日まで、新春書き初め大会を開催、毎年、多くの家族連れでにぎわっています。

生活文化も対象に検討

関空・成田で
書道展 反響

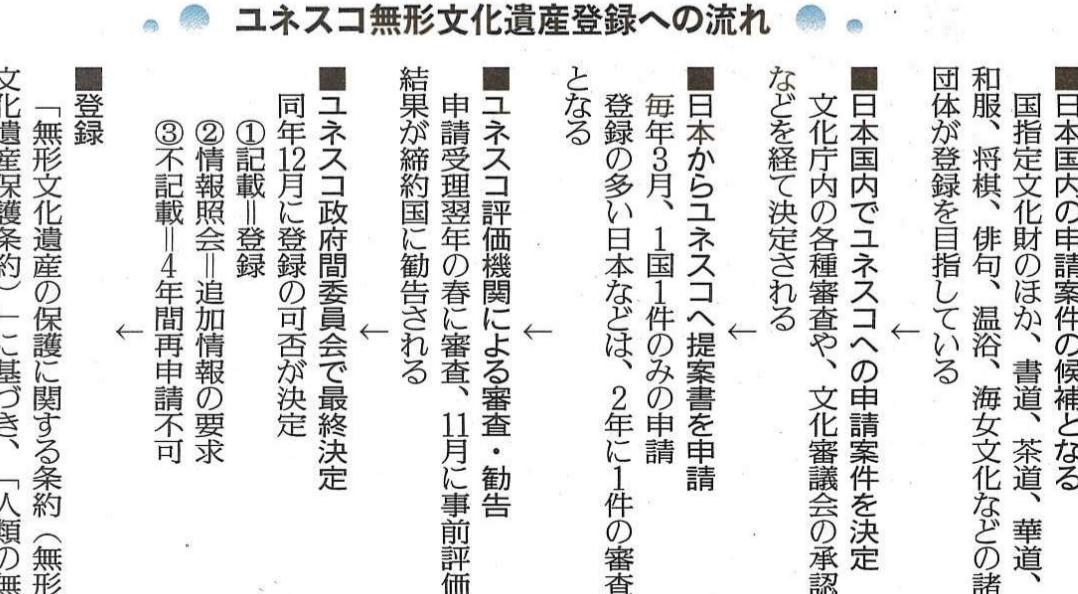


日本書道ユネスコ登録推進協議会では、「日本の書道文化」の保護継承運動およびユネスコ無形文化遺産への登録推進運動の一環として、平成29年（2017年）2月16日から11日間、関西国際空港ギャラリーで、井茂圭洞・日本書芸院最高顧問（日本藝術院会員）、吉川蕉仙・同院名誉顧問（日展会員）、黒田賢一・同院理事長（日展理事）ら協議会役員16人による「日本の書道文化展」を開催した。

の開催となった。会期初日および土、日曜日にはワークショップが開かれ、「筆と墨でうちわや和紙小物に筆文字を書いてみよう！」をテーマに体験コーナーが設けられた。5日間累計で756人、付き添いの人も含めると約1000人が参加した。

ると約1000人が参加した。関西国際空港での反響の大きさを受けて、同年12月21日から20日間、成田国際空港ギャラリーでも開催された。

日本書道ユネスコ登録推進協議会については公式ホームページ(<http://www.shodoisan.jp>)を監督ください。



ユネスコ登録目指して

チャッキラコ

(神奈川県三浦市提供)



日本の「ユネスコ無形文化遺産」登録状況

- 平成15年 無形文化遺産の保護に関する条約採択
- 平成18年 4月に同条約発効 目的…無形文化遺産の保護、無形文化遺産の重要性及び相互評価の重要性に関する意識の向上等
- 平成20年 登録3件 能楽、人形浄瑠璃文楽、歌舞伎 ※すでにユネスコで傑作宣言されている3件が登録
- 平成21年 同10件 雅楽、小千谷縮・越後上布(新潟)、甑島のトシドン(鹿児島)、奥能登のあえのこと(石川)、早池峰神楽(岩手)、秋保の田植踊(宮城)、チャッキラコ(神奈川)、大日堂舞楽(秋田)、題目立(奈良)、アイヌ古式舞踊(北海道) ※中国書法が登録
- 平成22年 同2件 組踊(沖縄)、結城紬(茨城・栃木)
- 平成23年 同2件 壬生の花田植(広島)、佐陀神能(島根)
- 平成24年 同1件 那智の田楽(和歌山)
- 平成25年 同1件 和食：日本人の伝統的な食文化—正月を例として— ※モンゴル書道が登録
- 平成26年 同1件 和紙：日本の手漉和紙技術 (石州半紙、本美濃紙、細川紙)
- 平成27年 日本書道ユネスコ登録推進協議会発足
- 平成28年 登録1件 山・鉾・屋台行事
- 申請中 来訪神：仮面・仮装の神々
- 提案予定 伝統建築工芸の技：木造建造物を受け継ぐための伝統技術

暮らしに息づく

平成27年（2015年）4月に公益財団法人全国書道振興会、公益社団法人全日本書道連盟、公益社団法人日本書芸院の3団体によって発足した「日本書道ユネスコ登録推進協議会」（会長・荒船清彦全国書道振興会会长）は、「日本の書道文化—書き初めを特筆して—」の国連教育・科学・文化機関（ユネスコ）無形文化遺産登録を目指して、活発に活動を展開しています。

心込め結婚祝う

結婚も大きな節目。門出を迎えた2人から周囲への感謝。周囲の人からの祝福。二つの思いが書を通じて伝わります。

結納の目録

両家が結納品の品名と数を楷書や行書で記したもの用意します。文字は濃い墨で、大きく、太く書きます。両家で受書も用意しておきます。

結婚式の招待状

格式を大切にしますので、表書きは濃い墨を使って丁寧な文字で書きます。

結婚式の引き出物のかけ紙

表書きは濃い墨で「寿」、両家の姓を連名で書くのが一般的です。上下の空きが等しくなるようにします。

芳名録

両家や新郎新婦にとって大切な記念になります。読みやすい書体で丁寧に書きます。筆を持つことの多い人でも緊張するものです。前に書いてある人と、文字の大きさや位置をそろえるとよいでしょう。

祝儀袋の表書き

金銭を贈るときに用いるのし袋には、ペンなどではなくて、筆で書くのが正しいとされています。慶事は墨を濃くします。文字は、「御祝」などの文字が、下の姓名よりも少し大きくなります。のし、水引の位置に注意して文字を並べます。



悲しみ表す

もちろん、人生の中では、悲しみも絶えません。喪儀の「不祝儀袋の表書き」地域にもありますが、薄い墨で墨が薄まってしまいます。宗教によっては「靈前」など、神式では「御玉印」教では「御花料」などとしま

これらを受けて、平成29年には原則登録推進協議会が登録を目指す対象は、漢字書・仮名書・漢字仮名交じり書を含む日本の書道文化全体。無形文化遺産保護条約で定められた「5分野」のうち、日本の書道文化は「社会的慣習」としている。この分野には、平成21年登録の「中国書法」や、平成25年登録の「和食」も含まれる。

登録分野は社会的慣習

- *5分野
- (a) 口承による伝統及び表現
 - (b) 芸能
 - (c) 社会的慣習、儀式及び祭礼行事
 - (d) 自然及び万物に関する知識及び慣習
 - (e) 伝統工芸技術



那智の田楽

(和歌山県提供)

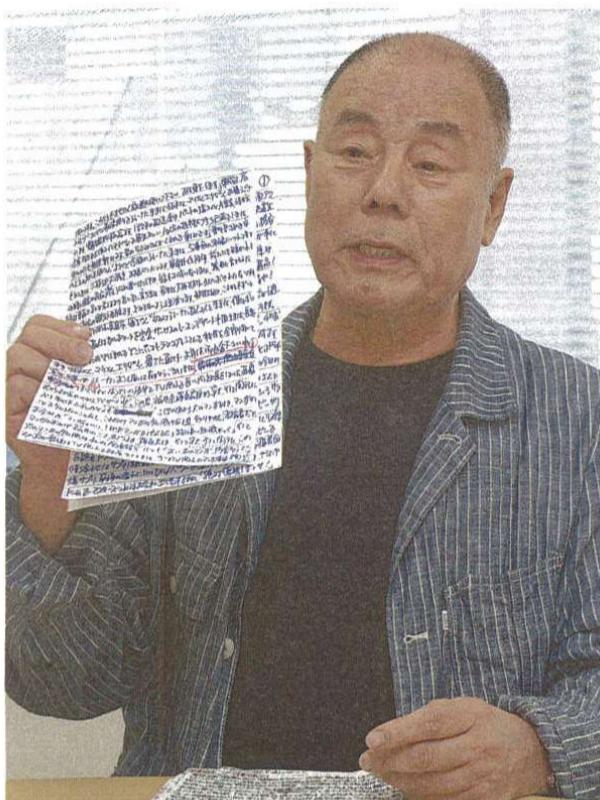
「無形文化遺産の保護に関する条約（無形文化遺産保護条約）」に基づき、「人類の無形文化遺産の代表的な一覧表（代表一覧表）」に記載される

登録

②情報照会・追加情報の要求
③不記載＝4年間再申請不可

手書き文字

フリーアナウンサー
桑原 征平 氏



くわばら しょうへい

1944年、京都市生まれ。67年、成城大学経済学部卒業後、一般企業勤務を経て、69年から関西テレビアナウンサー。2004年に定年後はフリーアナウンサーに。ラジオパーソナリティーの傍ら、各地での講演と幅広く活躍。

手書き文字は、書き手の思いや、人柄などを、読み手に伝えます。日本人を引きつけるその魅力を、それぞれの世界で活躍する方々に語ってもらいました。

(肩書は取材時)

「しゃべり」の土台は手書きの台本です。大阪のABCラジオでパーソナリティーをやつとりまし。「桑原征平 粋も甘いも」では週2回3時間、しゃべりっぱなし。音楽なんかは使わず全部しゃべりたいんで、毎回、台本をしっかり用意しとります。B4の紙を二つに折りたたんで、横書きでびつり書く。3枚で30分のワンコ一ナーベルの量です。1日分で7、8枚ぐらいかな。「ここで笑わせたんねん」と、色んな思いを巡らせながら書いていると自分でも楽しいんですね。しゃべる時はずっと手元に置いて、話が乗ってきたら臨機応変にふくらませたり、はしょったり。入力した字より自分の字の方がどこに何が書いてあるのかすぐ分かるし、手を動かして書いたものは記憶に残る。ま、アナログ人間でパソコンもスマホも苦手っていうだけの話ですけども。

関西テレビ（大阪市）に入社したとき、京都弁が抜けず仕事があると、桑原氏は苦笑いしながら、「京都弁が抜けず仕事がある」と答えた。桑原氏によると、京都弁は「京都弁が抜けず仕事がある」という言葉が、京都弁の特徴であると言える。

高校時代は大学ノートにハンドボール小説を書いたこともありました。書くことが好きな人です。毎日頭によぎったことと、考えたことを書いて書いて。切って貼って消していくんですわ。書くことが本当に楽しい

自筆台本で「しゃべり」

2回書くと頭の整理もつくんですわ。家に100冊以上残っています。手書きの原稿も、積み上げたら2箱はあるかも

た。実は父は大酒飲みで家族に暴力を振るう人間だったので、僕はほんまに大嫌いでした。しかしさが理解できました。父から戦争の話を聞いたことはありませんが、やり場のない怒りや悲しみを抱え込んでいたんやなと。2~3年前に番組でこの話を8か月かけて紹介しました。戦争はほんまにあきません。

ラジオの台本は、初めての5年くらいいは紙に書いた後、完璧を期して大学ノートに清書していました。

2回書くと頭の整理もつくんですわ。家に100冊以上残っています。手書きの原稿も、積み上げたら2箱はあるかも

りませんでした。ニュースが読めないアナウンサーだったんですね。やらずしてもらえたんは、前説だけ。

「それなら前説をきっちりやろう」と思つたんです。前説いうのは、タレントなどの具合でどんどん変わります。いろんな場面を想定して、5分、10分、30分用と原稿を数種類用意して頭にたたき込んだりやつたんで「おもろい使えるやツや」と思つてもらえたんでしょ

りやつたんで「おもろい使えるやツや」と思つてもうたんでしょ

<p

思いが伝わる

きりかね
截金師
長谷川 智彩 氏



はせがわ ちさい

1969年、京都生まれ。京都市立銅駒美術工芸高校卒業後、大仏師・松本明慶氏の元で修業。2008年に独立し、KIRIKANE studio Chisaiを設立。現在は主に神仏画や曼荼羅を手がける。

截金は、金の線で仏像や仏画に文様を描く伝統的な技法です。箔を炭であぶって貼り合わせ、竹の刀で細く切って、両手に筆を持てふのりとにかく混ぜたもので少しづつ貼り付けます。表現に合わせて線の細さは変えますが、最も細いものは0・08ミリともいわれています。彩色を終えた最終段階で截金を施すと、いろんな表情の光を呼び込んで絵や仏像を一層美しく莊厳にしてくれるんです。

私が截金に出会ったのは美術を専攻していた高校時代。集中して作業していると、「自分が怠っているな」とか、「自分の性格が甘いな」ということを明らかに見せられる気がして、たちまち引き込まれました。卒業後は京都の仏師の先生に弟子入りして、仏像制作や修復の彩色と截金を担当しました。現在は独立し、神奈川県三浦市で神仏画と曼荼羅を制作しています。下絵から截金まで一人で作業するので、

一つの作品を仕上げるのに数年かかります。時間はどれだけあっても足りないし、一生かけて追究しても納得はできない世界かなと思っています。子どもの頃から書道は苦手なんですが、きちんとした文字を書きたいと思って王羲之の臨書に挑戦した時期もありましたけど、今は作品制作で精いっぱい。でも、手書きの文字を見るのはとても好きで思っています。

子どもの頃から書道は苦手なんですが、きちんとした文字を書きたいと思って王羲之の臨書に挑戦した時期もありましたけど、今は作品制作で精いっぱい。でも、手書きの文字を見るのはとても好きで思っています。

両手に筆 光の線描く

す。江戸時代の僧侶、良寛さんの文字からは優しさを感じますし、博物館などで見かける戦国時代の武将が戦の中で残した手紙からは命を懸けた緊迫感が伝わります。禅宗のお坊さんがさらりと書かれるような肩の力を抜いた文字にも憧れますね。書き手の生涯の深み、書くときの体の構え方、思い入れなどが文字の一つ一つに表れて、その感覚は書き手が亡くなつた後でも残つていくようです。文

字は直接的に意味も伝えるし、読めなくとも絵のようにイメージを伝えられます。私たちも作品を通して「イメージを伝える」作業をしているわけで、同じように貴重なものだと思いますね。

今のアトリエは、海の近くで富士山も見える場所にあります。色彩豊かな開けた景色を眺めていると、もつと自由に表現できるんじやないか、もっと截金の可能性を広げられるんじゃないのかと感じます。2018年11月には京都で個展を予定しています。しかし、いざれば海外にも

作品を持って行くつもりです。美しいものを見ている時、人は争う気持ちにはならないと思うんですけど、穏やかな気持ちで自分を振り返り、平和につなげられるような作品を作りたいですね。絵を描いてそこに文字を添えるような作品にもいつか挑戦したいと思っています。まだ経験が浅くと年を重ねた時の楽しみにとつておきますね。

演劇ジャーナリスト
廣瀬 依子 氏



ひろせ よりこ

1966年、京都市生まれ。総合芸能雑誌「上方芸能」編集次長を経て、2008年から16年の終刊まで編集長を務める。以後、演劇ジャーナリストとして活動。新聞、雑誌、劇場プログラムへも寄稿。追手門学院大学非常勤講師。

万年筆で一言 心添え

大学卒業後に関西の芸能文化を扱う雑誌「上方芸能」編集部へ入社し、16年5月に累計200号で終刊するまでの8年間は編集長を務めました。よく字を書く職場だったと思います。新人時代は、液晶ディスプレーが一行表示の初期のワープロがまだ使われていたころ。原稿依頼状は手書きの文書をコピーして使っていました。見れば「コピーと分かるので、「よろしくお願い申し上げます」の一言でもいいから、先方さんへのメッセージを書き添えて。宛名と自分の名前も手で、それも万年筆で書きました。

パソコンが普及してからは、事務連絡などは読みやすいのでパソコンでフォーマットを作りましたけれど、必ず1行は、手書きを添えました。共通の話題があれば、必ずそれを書くようにしていましたね。長く連載していただいた書誌学者の先生と私は2人ともOSK日本歌劇団が好きで、劇場ではたりお会いすることも。そんな

時は「この前の公演はこんなふうでしたね」と書いたものです。すると先生も「あの作品は面白かったですね」とか、「誰々が退団されたのはさみしいですね」と原稿に添えて手紙をくださった。それで「ミュニケーションがとれている。手書きのやりとりは、会わなくてても会つているような気持ちにさせてくれますね。

昔は原稿も手書きで下さる方が多かったです。中には大変個性的な字の方もいらした。何とか分かる文字を探して、前後の文脈とか、単語で見当をつけて一生懸命判読していくんです。そんなことを繰り返していると、不思議なことにだんだん読めるようになる。苦労せず読めるようになると、その方に一步近付けた気がしました。

この前実家に帰りました。私の荷物がまだ残っているのですが、一番多いのがはがきと手紙。ベッド下の引き出しにぎっしり。そろそろ、片付けないとあかんと思つてやり始めたんですけど、字を見て「あー〇〇ちゃんだ」。全然進まないんです。特に何も考えずにしまい込んだのですけど、捨てられないんですよ。片付けるのを諦めて、そのままにしてきました。

学校時代には友達とメモを交換しましたし、字とその人は結びついて覚えました。今でも年賀状の

書く楽しさ

第13回 手書き文字ばんざい！

良さを体験してもらう「第13回手書き文字ばんざい！」が平成29年10月15日、大阪市中央区のOMMビルで開かれました。幼児からお年寄りまで約340人が参加し、「色」をテーマにした文字や、翌年のカレンダー付きの色紙に好きな言葉書き、手で文字を書くことの楽しさを感じ取っていました。

手書き文字ばんざい！
読書週間初日の10月27日が「文字・活字文化の日」に制定された2005年、本院と読売新聞社が始めて、毎年10月に開催している。

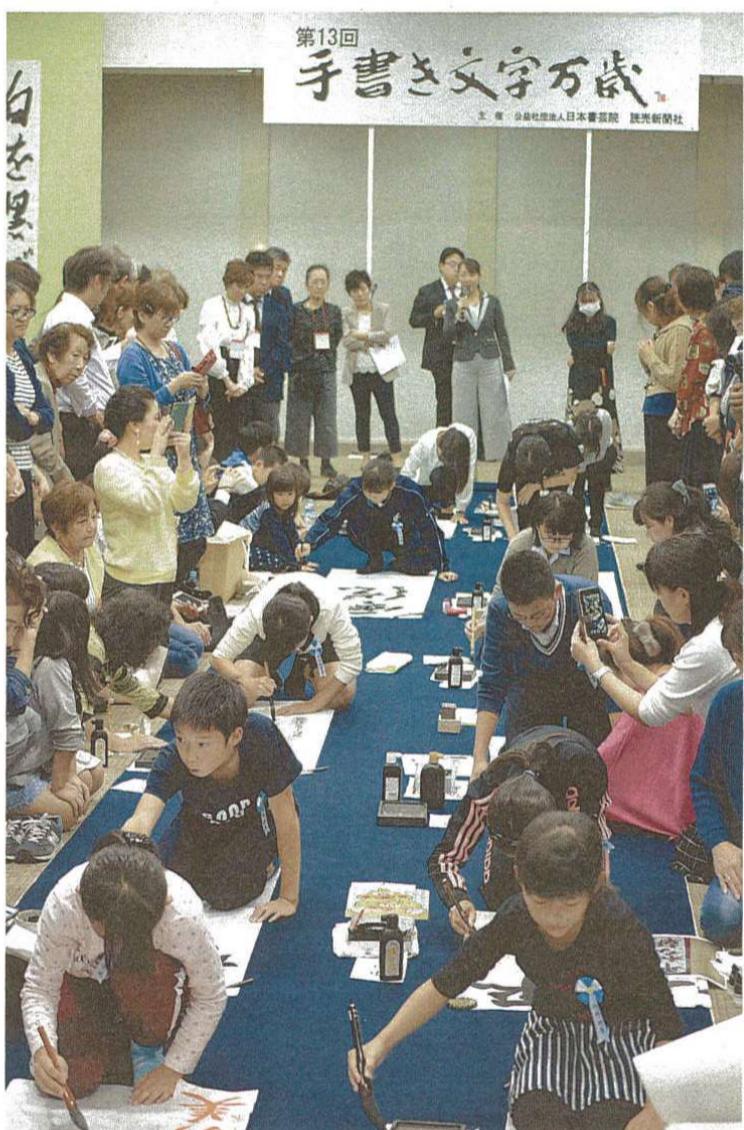
日本書芸院役員展の大作揮毫で始まりました。参加者の視線が集まるなか、一字ずつ丁寧に「白を黒で表す」と書き上げました。松丸さんは「私も意識しているテーマです。普段、書道は手本の『黒い部分』を見て書くと思いますが、余白や字の中の『白い部分』を意識して表現すると、もっとよくなります。黒いところは筆の動きまま、白いところをどう作るか考えながら書くと、上手に書けると思います」と話すと、参加者はうなづきながら、大きな拍手を送っていました。

続いて、読売新聞大阪本社が「手書き文字ばんざい！」と題みなさんが学校や書道教室で磨いていく腕を、今日は思いつきり發揮してください。緊張せず、リラックス

好きな言葉記念色紙に

して筆を持ってください」と、深呼吸を促して、参加者の気持ちをほぐしました。

この後、参加者は「金」「水」「みどり」など「色」をテーマにした手本から好きなものを選び、会場に展示する色紙作品制作に挑戦。一人で集中して書く子や、出来栄えを見せ合う親子や年配の方など、様々な姿が見られ、机の上などには、参加者らの書いた文字がたくさん置かれていました。



【主催】公益社団法人日本書芸院、読売新聞社

【後援】文部科学省、大阪府教育委員会、大阪市教育委員会、読売テレビ

【協賛】あかしや、呉竹、サクラクレパス、ゼブラ、トンボ鉛筆、パイロットコーポレーション、ぺんてる、墨運堂（50音順）



参加者募集

平成30年
第14回手書き文字ばんざい!

【日時】平成30年10月21日(日)午後1時から
【会場】OMMビル2階Bホール(大阪市中央区)
【申込】代表者の住所、氏名、電話番号、参加者数、参加者全員の氏名、年齢、学年を明記して、FAXかはがきで日本書芸院事務所宛てにお申し込みください。
※参加無料。小学生以上が対象で定員300人(先着順)。小中学生は保護者同伴。用具類は不要。
【主催】公益社団法人日本書芸院、読売新聞社
【後援】文部科学省、大阪府教育委員会、大阪市教育委員会、読売テレビ(申請予定)
【協賛】あかしや、呉竹、サクラクレパス、ゼブラ、トンボ鉛筆、パイロットコーポレーション、ぺんてる、墨運堂(予定)

心のまに

書きの文字

写・書道ってすばらしい
れいに美しく
字を書こう
字を美しさは
文化のバロメーター

「書けない」と苦戦。「そこには気付けて書きます」と、新しい紙に手を伸ばしていく。一生懸命に手本を見ながら、「赤」と書いていた奈良市の古閑仁子さん(中学1年)は、「とめやはらいに氣を付けて、じこをよくしたり細くしたりすれば手本に近付けられるかを考えました。普段は細い筆でかなを書いているので、太い筆は久しぶり。書道は筆の動かし方や感覚が分かればうまく書ける」と話していました。

大阪市住吉区の坂東奈緒さん(32)は、何かに打ち込みたくて、5年ほど前から教室に通っているそうです。「日常生活では褒められることがありました。記念品のカレンダーには、好きな言葉や目標などを思い思いに書き、絵の具で模様を加えてカラフルに仕上げていました。

最後に「第12回全日本小学生・中学生書道紙上展」「第22回全日本高校・大学生書道展」の成績優秀者、計13人による学生代表者揮毫が行われました。一文字一文字集



「緑」の篆書に挑戦している大阪府枚方市の松村奎君(小学2年)は、「書道教室に通っていますが、今日はいつもと違う字を書いてみたくて、この字を選みました。いろんな字があつて楽しい」と、初めて見る書体に興味を持っています。また、会場後方の「寄せ書きコーナー」には大きなパネルが用意され、筆やフェルトペン、色鉛筆などで好きな言葉を自由に書きました。展示された作品や、友達、兄弟姉妹と一緒に写真を撮る姿がたくさん見られました。たく

さんの人たちと「書」を通じた交流を深め、楽しい催しとなりました。

「緑」の篆書に挑戦している大阪府枚方市の松村奎君(小学2年)は、「字を書くことは楽しいし、心がこもっていると感じる。おばあちゃんに暑中見舞いなどを出したから、今日のカレンダーをプレゼントする」と話しています。堺市の村田樹優さん(中学1年)は、書道の先生になるのが夢だそうです。「毛筆は力の入れ具合で筆先が変わって、字も変わる。その時その時で字が違ってくるから面白い。『白を黒で表す』という言葉は勉強になりました」と話していました。

は普段書かない書体だから、面白いねと話しながら書きました。出来栄えは、まあまあかな」。

大阪市東成区の大平瑞稀さん(小学4年)は、「字を書くことは楽しいし、心がこもっていると感じる。おばあちゃんに暑中見舞いなどを出したから、今日のカレンダーをプレゼントする」と話しています。堺市の村田樹優さん(中学1年)は、書道の先生になるのが夢だそうです。「毛筆は力の入れ具合で筆先が変わって、字も変わる。その時その時で字が違ってくるから面白い。『白を黒で表す』という言葉は勉強になりました」と話していました。

第22回 全日本高校・大学生書道展

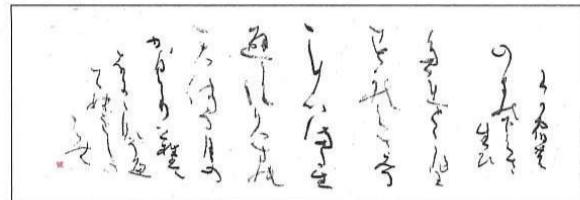


桐蔭高2年(和歌山県)橋本果奈
【日本書芸院賞】

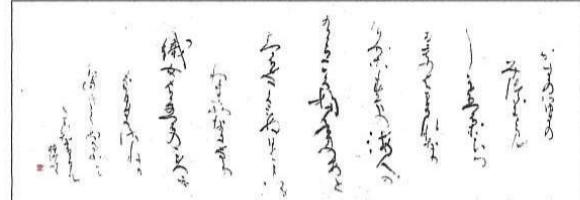


「第22回全日本高校・大学生書道展」(平成29年・2017年)は漢字、かな、調和体(漢字・かな交じり文)、篆刻の4部門に計1万397点の応募があった。最高賞の全日本高校・大学生書道展大賞に51点が選ばれたのを始め、同展賞337点、優秀賞573点が決まった。入賞作品計961点は、同年8月22日から27日まで大阪市立美術館(大阪市天王寺区)で展示され、最終日には同市内のホテルで授賞式が行われた。

学生書道の グランプリ



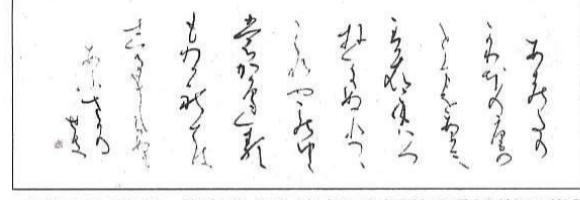
奈良大付高3年(奈良県)中尾綾夏【賛交社賞】



京都橘大4年(京都府)岡本梓沙【墨運堂賞】



四国大3年(徳島県)後藤知美【みなせ筆本舗賞】



六甲アイランド高2年(兵庫県)梶井和【松林園賞】



龍谷大1年(京都府)谷崎大治郎【日本書芸院賞】

第23回全日本高校・ 大学生書道展(予告)

【作品受付】平成30年(2018年)6月15日(金)締切 ※同日消印有効 必要資料をご請求の上、作品とともにお送りください。
【出品資格】高校・大学等の在籍者など中学校卒業以上25歳までの学生あるいは進学準備中の方(平成30年6月15日現在)。※代表者の住所は日本国内に限る

【会期】平成30年8月21日(火)~26日(日)
【会場】大阪市立美術館 地下展覧会室(天王寺公園内)
【主催】公益社団法人日本書芸院
読売新聞社
【後援】文部科学省(申請予定)
△陳列 大賞・展賞・優秀賞を陳列します(約1000点)。
△授賞式 展覧会最終日に授賞式・祝賀パーティーを開催します。

■作品応募要項の詳細はホームページでご確認ください。
<http://www.nihonshogeiin.or.jp>
(4月以降)

大賞作品を掲載した高大展新聞を無料でお届けします。
希望部数を日本書芸院事務所までお申し込みください。
(新聞代・送料とも無料)

審査

日 時 平成29年(2017年)7月13日(木)
会 場 マイドームおおさか 1階
審査員 読売書法会常任総務・新井光風、樽本樹邨、本院理事長・黒田賢一、本院副理事長・眞神巍堂、今村桂山、高木厚人、横山煌平、山本悠雲、土橋靖子、読売新聞東京本社取締役事業局長・福士千恵子、読売新聞大阪本社取締役事業本部長・橋本誠司

審査結果

個人賞 全日本高校・大学生書道展大賞 51点
全日本高校・大学生書道展賞 337点
優秀賞 573点
準優秀作品 2404点
優良作品 7032点

出品点数 1万397点

○種別
第1種 6601点
(2×8、2.6×6、4×4)
第2種 3553点(全紙、聯落)
第3種 243点(篆刻)

団体賞 高等学校の部

最優秀校 和歌山県立桐蔭高等学校(和歌山)
優秀校2位 大分高等学校(大分)
優秀校3位 明誠学院高等学校(岡山)
第4位 奈良県立桜井高等学校(奈良)
第5位 岩手県立福岡高等学校(岩手)
第6位 盛岡市立高等学校(同)
第7位 岩手県立盛岡第四高等学校(同)
第8位 東福岡高等学校(福岡)
第9位 鹿児島県立大島高等学校(鹿児島)
第10位 岐阜県立飛騨高山高等学校(岐阜)

団体賞 大学の部

最優秀校 四国大学(徳島)
優秀校2位 京都橘大学(京都)
優秀校3位 大東文化大学(東京)
第4位 岐阜女子大学(岐阜)
第5位 奈良教育大学(奈良)
第6位 立命館大学(京都)
第7位 京都教育大学(同)
第8位 中京大学(愛知)
第9位 帝京大学(東京)
第10位 龍谷大学(京都)

